

凱旋ライブで
故郷に愛を届ける

Charity talk Show produce IKKO



2

3



1 方城和太鼓クラブとの共演で、「好きになった人」を披露。2 会場を巡り、感謝の言葉をかけながら観客と握手を交わす。3 グランドピアノの優雅な音色に合わせて歌うIKKOさん。4 入場料による収益金372,000円すべてをIKKO文庫の蔵書費用として寄付。5 1月20日に誕生日を迎えたIKKOさんに「特製ケーキ」をプレゼント。6 風邪予防のハチミツアメを来場者にプレゼント。7 再会を誓いながら来場者一人ひとりに別れの握手。

舞台では、「好きになった人」や「ゴージャス」「どんだけ～!の法則」などの持ち歌や山本リンダの「どうにもとまらない」を熱唱。地元の友人などのネタで笑いをとりながら、約2時間の公演を盛り上げました。



故郷への想いを形に



↑ 休み時間になると、大勢の子どもたちが詰めかける「IKKO文庫」。(写真=伊方小)

「30代半ばから、真の『望郷』が分るようになった」というIKKOさん。そんな故郷への想いが形になり、一昨年の観光大使就任記念イベントの収益で、町内全8校に「IKKO文庫」が設置されました。「故郷の子どもたちには、本から自分が経験できないことを知り、先人の知恵、歴史が物語る内容、物事の意味などを理解して、生きる力や感性、想像力を豊かにしてほしい」とIKKO文庫への想いを語るIKKOさん。今回で4回目となった「チャリティーショー」の収益で、IKKO文庫がさらに拡充します。

「田川出身と公言しない方もいるけれど、私は炭鉱まち（福智町）で生まれたことが誇りだと思っている。この町で育ったからこそ、今の私があるから——」。

一昨年の11月、福智初の町観光大使に就任した美容家のIKKOさんが2月2日、約1年ぶりに帰郷し、チャリティートークショーを地域交流センターで開催しました。町内全8校に設置している「IKKO文庫」の蔵書費用として、入場料による収益金を全額寄付。故郷の子どもたちの夢の実現を願って、本がさらに充実することになりました。

「鼓動が魂の音に聞こえる」とIKKOさんが称賛する方城和太鼓クラブとの共演で幕開けした今回の舞台。太鼓の重厚な音色とIKKOさんの歌声が共鳴し、

心の隙間を埋める故郷に
愛のメッセージを贈る



↑ IKKOさんから講演支援のお礼に町に贈られた胡蝶蘭。

会場のボルテージは序盤から一気に上昇。また、曲の合間で、生い立ちから現在の地位を確立するまでの波瀾万丈な人生を赤裸々に語り、会場の笑顔と涙を誘いました。

その後、町からIKKO文庫設置と町の魅力を広く宣伝した功績を称え「福智町ふるさと功労賞」を授与されたIKKOさん。会場からは、1月20日に誕生日を迎えた記念に豪華な「誕生日ケーキ」が贈られ、「心の隙間を故郷がいつも埋めてくれる。これでまた、どんな荒波も乗り越えていける」と涙ながらに感謝し、最後は「必ずまた戻って来ます」とお別れのメッセージを残して、故郷を後にしました。



Charity talk Show produce IKKO

観光大使IKKOさん

凱旋ライブで 故郷に愛を届ける

町の観光大使で美のカリスマとして日本を席卷し、海外でもその名を轟かせるIKKOさんが2月2日、地域交流センターでチャリティートークショーを開催。入場料による収益金すべてが町内全8校に設置している「IKKO文庫」の蔵書費用として寄付されました。華やかな衣装に身を包み、心に響く歌やトークで来場者の胸を打ったIKKOさん。その華麗なるステージの一部始終をお届けします。